令和４年度　校内研究の概要

１　研究主題

「主体的・対話的で深い学び」を実現する授業づくり

～　動き出したくなる課題設定の工夫を通して　～

２　研究主題設定の理由

（１）　社会的課題と要請から

知識基盤社会の到来やグローバル化の進展など，急速に社会が変化する中，これからの時代を生き抜く子どもたちには，幅広い知識と柔軟な思考に基づく判断や，他者と切磋琢磨しつつ異なる文化や歴史に立脚する人々との共存など，社会の変化に柔軟に対応する能力が求められている。また，知識基盤社会を担う子どもたちに必要な力として，「確かな学力」「豊かな人間性」「健康・体力」の３つの調和がとれた「生きる力」を育むことが求められてきた。

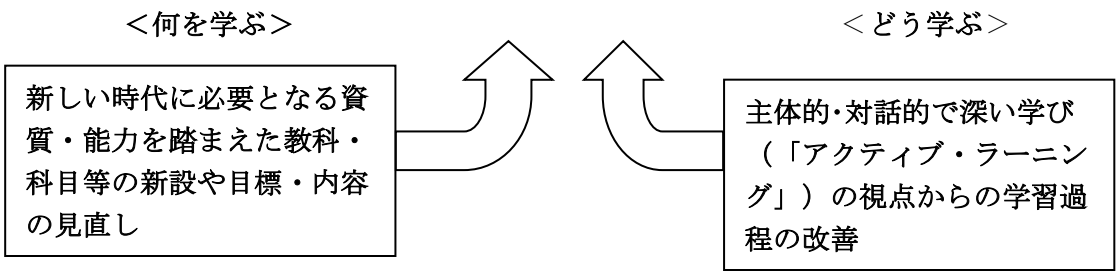
「生きる力」を構成する要素の１つである「確かな学力」においては，近年の国内外の学力調査の結果などから，我が国の子どもたちには基礎的・基本的な知識や技能を活用して問題を解決する能力（思考力・判断力・表現力等）に課題が見られることが指摘された。このような現状から，旧学習指導要領では，「基礎的・基本的な知識・技能」の習得に加え，これらを活用して課題を解決するための「思考力・判断力・表現力・その他の能力」を育むことが重要であると強調されてきた。

そして一昨年度から実施された新学習指導要領では，一人一人の児童が，自分のよさや可能性を認識するとともに，あらゆる他者を価値のある存在として尊重し，多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え，豊かな人生を切り拓き，持続可能な社会の創り手となることができるようにすることが求められている。また，「主体的・対話的で深い学び」の実現に向け，授業改善を活性化し，子どもたちの知識・理解の質の向上を図り，これからの時代に求められている**資質・能力**を育むことが重要であるとされている。

このような今日的課題を踏まえ，主体的に学習に取り組む姿勢や，互いに尊重しながら対話し，学び合う学習活動を通して学びの質を高め，２１世紀を生き抜く力を身に付けた児童の育成を目指していきたい。

○育成すべき**資質・能力**（「三つの柱」）

① 何を知っているか，何ができるか（個別の知識・技能）
② 知っていること・できることをどう使うか（思考力・判断力・表現力等）
③ どのように社会・世界と関わり，よりよい人生を送るか（学びに向かう力，人間性等）



（２） 本校の教育目標の具現化から

学校教育目標「有能で品位のある子ども」　～ふるさとを愛し，羽ばたく子に～ 児童の個性に応じ，自ら学び考える力などの確かな学力を育み（知），豊かな人間性に富み(徳)，心身ともに健康で意欲的に働く（体）児童を育成する。

ここに示される「確かな学力」とは，基礎・基本を確実に身に付けるとともに，自ら学び，自ら考え，主体的に判断・行動し，よりよく問題を解決する資質や能力のことである。そしてこの自ら学び自ら考える力の育成は，新学習指導要領にある「主体的・対話的で深い学び」の理念に通じている。また，これまでの「生きる力」の構成要素として，「確かな学力」「豊かな人間性」「健康・体力」の３つがあったが，本校の学校教育目標も，知・徳・体のバランスのとれた人間形成を目指しており，その理念につながる思いが込められている。**副題にある「ふるさとを愛し，羽ばたく子に」という言葉には，本校の歌詞にあるように生まれた生命を何よりも大切にしながら，富士を仰いで育む『思い遣る心』を醸成し，新たな歴史を刻む学び舎で主体的・対話的で深い学びの中に，自分の見方・考え方を「広げ・深め・つなぐ」学びを実現しながら，子ども達が成長する上で必要なコンピテンシーを身に付け，人の傘となるための『他者を思い遣る心と健康な体』を兼ねそろえた健全な児童を育成したいという願いが込められている。**

これまでも，自ら学び考え，豊かな人間性に富み，心身ともに健康な児童の育成のために教育活動を推進してきた。平成２９年度からはさらに，アクティブラーニングの視点からの授業改善や授業実践の展開を図りながら，日々の教育活動に取り組んできた。そして，一昨年度からは，児童がより主体的に学ぶことを目指した研究に取り組んだ。**今年度も，引き続き，児童がより主体的に学ぶことを目指した研究を通して，本校の教育目標の具現化を目指していきたい。**

（３） これまでの研究経過から

平成２９年度は，新学習指導要領の完全実施に向け，その柱となっている「主体的・対話的で深い学び」の具現化に向けて，「『主体的・対話的で深い学び』を実現する授業づくり～算数科における問題解決型の学習を通して～」を研究主題・副題に設定し，授業実践に取り組んできた。平成３０年度からは，前年度の研究の成果と課題をもとに教科の枠を広げ，副題を「問題解決型のプロセスを工夫した学習を通して」に設定し，各教科等の指導において，「主体的・対話的で深い学び」を実現する授業づくりについて２年間研究を深めてきた。一昨年度からは，甲府の子どもの教育総合推進校の指定を受け，副題を「動き出したくなる課題設定の工夫を通して」に設定し，児童が主体的に学ぶとともに，学ぶ意義を実感できる課題設定の工夫について，一人一実践の取組を通して研究を進めた。**今年度も，昨年度の研究を生かし，課題設定の工夫について，ブロックでの取組を通して研究を進めていきたい。**

（４） 児童の実態・課題から

全国学力･学習状況調査や全校児童を対象に行ったアンケートや学校評価などから，本校児童の課題点として以下のような点が挙げられる。

① 学習への意欲・理解力に個人差がある。
② 学習面・生活面ともに，特別な支援を要する児童が各クラスに数名いる。
③ 自分の考えをまとめたり，表現したりすることに苦手意識が見られる。
④ 目的や意図に応じ，必要な内容を整理したり，理由や根拠を示して論理的に説明したりする力がやや弱い。
⑤ 家庭学習の取組について，内容や質・家庭の協力に差が見られる。

上記の①と②については，副題にある「動き出したくなる課題設定の工夫」や，ユニバーサルデザインの視点を取り入れた環境整備・教材・指導法の工夫に取り組むことにより，児童が主体的に学ぶとともに，どの子にもわかりやすい授業づくりに取り組んでいく。③と④については，これまでの基

礎的・基本的な知識・技能を確実に習得させる指導を継続しながら，「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けての授業実践を通し，論理的な思考を高めたり，学びを深めたりしていく必要がある。⑤については，家庭との連携を図りながら家庭学習を充実させ，家庭学習の定着に努めていきたい。

３　研究主題のとらえ方

（１）「主体的な学び」のとらえ

学ぶことに興味や関心をもち，見通しをもって粘り強く取り組み，自己の学習活動を振り返って次につなげる学び。

その実現のために，子ども自身が興味をもって積極的に取り組みたくなるような課題を設定し，学習活動を自ら振り返って意味付けたり，身に付いた資質・能力を自覚したり，共有しながら次の学びにつなげていく。

（２）「対話的な学び」のとらえ

子ども同士の協働や教職員との対話，先哲の考え方を手掛かりに考えること等を通して，自己の考えを広げ深める学び。

その実現のために，身に付けた知識や技能を定着させるとともに，多様な表現を通じて，教職員と子どもや，子ども同士が対話し，それによって思考を広げ深めていく。

（３）「深い学び」のとらえ

習得・活用・探求という学びの過程の中で，各教科等の特質に応じた「見方・考え方」を働かせながら，知識を相互に関連付けてより深く理解したり，問題を見いだして解決策を考えたり，思いや考えを基に創造したりすることに向かう学び。

その実現のために，子どもたちが各教科等の学びの過程の中で身に付けた資質・能力の三つの柱を活用・発揮しながら物事をとらえ思考することを通じて，資質・能力をさらに伸ばしていく。

「主体的・対話的で深い学び」の実現のための手立てとして

⇩

動き出したくなる課題設定の工夫に取り組む

動き出したくなる課題とは，児童自らが「解決したい」「わかるようになりたい」「できるようになりたい」という強い課題意識をもち，積極的に取り組みたくなるような課題のことであり，**主体的な学びを実現するためには，動き出したくなる課題設定の工夫に取り組んでいく必要がある。**

【動き出したくなる課題例】

☆本時のねらいを達成できる課題であることが大前提

○知的好奇心をくすぐる課題（驚き・不思議さ など）
○認識のずれをゆさぶる課題（わざと誤答を示す など）
○実生活と関連のある課題
○多様な考えが引き出せる課題
○解決する必要性・必然性のある課題
○児童の「問い」や「つぶやき」を生かした課題
○教科の特質に応じた「見方・考え方」を働かせる課題　　など

教師主導の課題から，問いの投げかけ方や教材提示の工夫を通して，動き出したくなる課題（児童が自分の課題として主体的に受け止める効果がある課題）へと変容させていく。

⇩

学ぶ意義のある課題になっていることを踏まえた上で，さらに課題をとらえやすくするために・・・
○具体物や半具体物を提示したり，写真や映像の提示（ICT の活用）をしたりすることも有効である。

４　めざす子ども像

必要感・切実感をもって課題に臨み，見通しをもって自力解決に取り組み，自分と他者の考えを交流しながら学び合うことで，見方や考え方を深めながら，自分の考えを形成していく児童。

５　研究仮説

各教科等の指導において，**動き出したくなる課題設定を工夫**することによって，児童は課題を自らのものとしてとらえ，課題解決への意欲を高めながら，他者との交流や学び合い，自己の振り返りの中で思考を深めることを通して，主体的・対話的で深い学びの具現化につなげていくだろう。

６　研究内容

（１）授業研究

○**課題設定の工夫**…**動き出したくなる課題設定の工夫**
実生活と関連のある課題，多様な考えが引き出せる課題，
解決する必要性のある課題，教科の「見方・考え方」を働かせる課題　など

○**学習過程の工夫**…問題解決型のプロセス

「つかむ・見通す⇒探究する①（自力解決）⇒探究する②（学び合い）⇒振り返る」

＜つかむ・見通す＞
・問いを持つ
・課題の設定と共有
・結果や解決方法の見通し

⇒

＜探究する①②＞
① 自分で課題の解決
↓
② 集団で課題の解決
（ペア・グループ・全体）

⇒

＜振り返る＞
・学んだ内容のまとめ
・自他の変容
・次の課題意識

○**教材・教具の工夫**…**具体物，半具体物，ICT 活用，学習掲示物，発表ボード（ホワイトボード）**
ワークシート など

○**学習形態の工夫**…全体，小集団，ペア，個　**など**

○評価方法の工夫…ルーブリック評価，ＯＰＰ，学習感想 など

（２）学習会の開催

昨年度，本校は３回の学習会を開催した。３回の学習会は，実践に結びつく内容であり，日々の授業改善に生かすことができた。第１回目「Chromebook 学習会」では，実際に Chromebook を操作しながら学び，授業での活用への理解を深めることができた。第２回目「『主体的・対話的で深い学び』の実現に向けて」では，研究授業を行う算数科と国語科における「主体的・対話的で深い学び」について理解を深め，実際の研究授業につながる多くの視点を学び，授業研究に生かすことができた。第３回目では，上智大学の奈須正裕先生による講演会「資質･能力を育成する授業づくりとカリキュラム・マネジメント」を開催し，新学習指導要領の理念を踏まえて講演をしていただいた。拡大校内研究会として，市内の小・中学校に参加を呼びかけ，共に学ぶ機会となった。

今年度も，昨年度までに学習した内容を授業に生かすとともに，「主体的・対話的で深い学び」の授業づくりについての学習会を開催し，具体的な授業づくりについて学ぶ機会を設けていきたい。

（３）家庭学習の推進

子どもたちが学習意欲を持ち，学習習慣を確立していくためには，学校での「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業実践とともに，家庭との連携を図った家庭学習の充実に取り組む必要がある。学校で学習したことを家庭で復習することにより，学習内容の習熟･定着を図ることができる。さらに，毎日家庭学習を続けることにより，自ら進んで学ぶ習慣を身に付けることもできる。また，学校で「わかった」ことが，反復練習によって「できる」という自信にも変わり，学習意欲の向上に

もつながる。本校では，平成２９年度より「家庭学習のすすめ」を全家庭に配布し，家庭と連携しながら家庭学習の習慣化を目指している。令和元年からは，３年生以上の各教室に「自学名人コーナー」を設け，参考となる自学ノートを掲示したことにより，児童の自学への意欲を高めることができた。今年度も引き続き，「家庭学習のすすめ」を活用したり，「自学名人コーナー」を設けたりするなど，全校で共通した取組を進め，自学カードを使用しより効果的・計画的な家庭学習の推進に努めていきたい。

７　研究方法

授業研究部会と機能部会を組織して研究に取り組む。授業研究部会では，授業研究の推進を図るため，低・高の２ブロックに分かれて研究を行う。

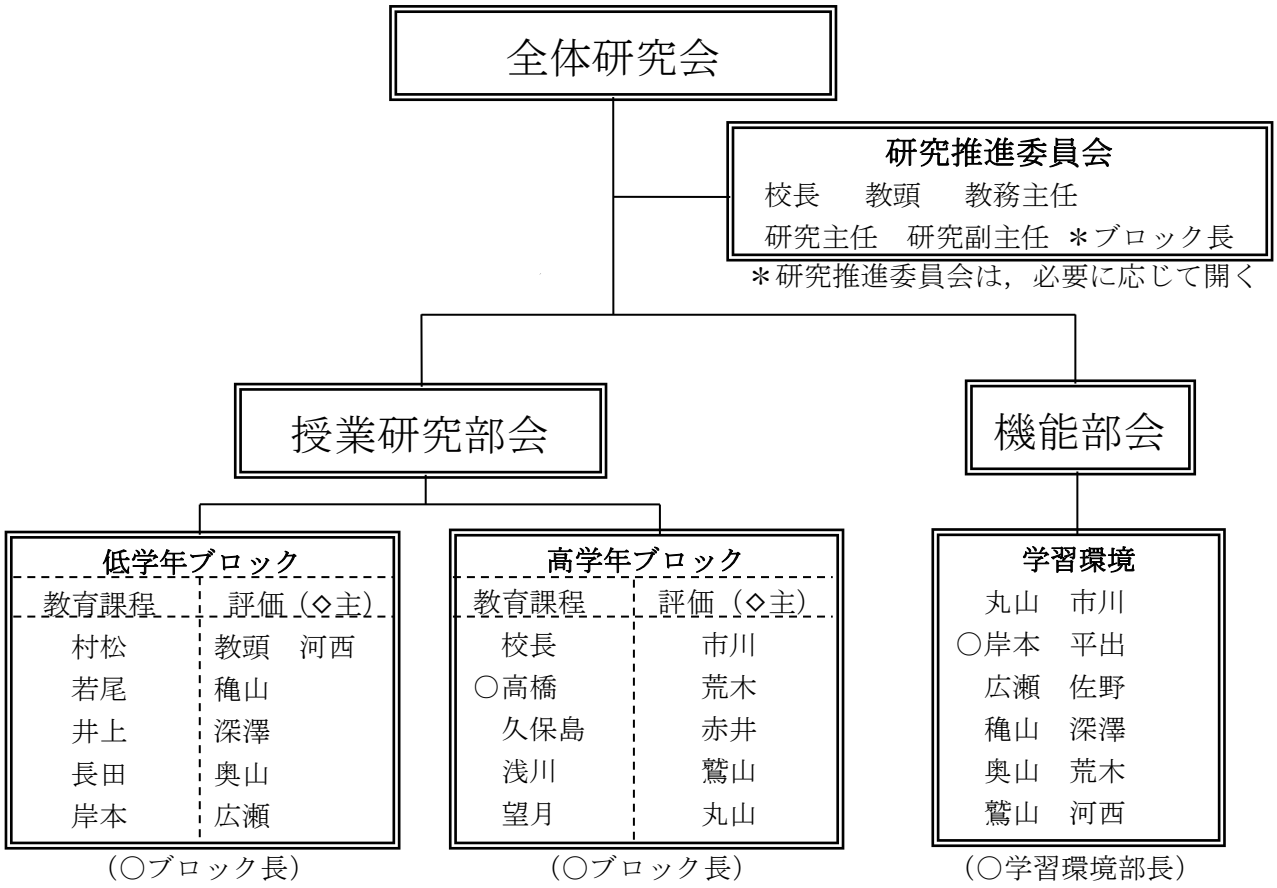
（１）授業研究部会

- **動きだしたくなる課題設定の工夫に取り組み，課題解決のための手立てを工夫した授業づくりを行う。授業後には，意見を交流することで研究を深める。**
- 教育課程における単元のつながり，評価方法についての研究を行う。
- 家庭と連携を図りながら，家庭学習の充実に向けた取り組みを推進していく。

（２）機能部会

- **ユニバーサルデザインの視点を取り入れた学習環境の整備・教材・指導法の工夫について研究し，学習を支える環境の整備に取り組む。**

８　研究組織



９　研究構想図

本校の教育目標の具現化から

学校教育目標「有能で品位のある子ども」　～ふるさとを愛し，羽ばたく子に～
児童の個性に応じ，自ら学び考える力などの確かな学力を育み（知），豊かな人間性に富み(徳)，心身ともに健康で意欲的に働く（体）児童を育成する。

社会的課題と要請から

・「基礎的・基本的な知識・技能」の習得に加え，「思考力，判断力，表現力等」を育み，「主体的に学習に取り組む姿勢」を養わなければならない。
・一人一人の児童が，自分のよさや可能性を認識するとともに，あらゆる他者を価値のある存在として尊重し，多様な人々と協同しながら様々な社会的変化を乗り越え，豊かな人生を切り拓き，持続可能な社会の創り手となることができるようにする。
・「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善
（新学習指導要領等から）

これまでの研究経過から

Ｈ２９年度『「主体的・対話的で深い学び」の実現する授業づくり～算数科における問題解決型の学習を通して～』
Ｈ３０・３１年度『「主体的・対話的で深い学び」を実現する授業づくり～問題解決型のプロセスを工夫した学習を通して～』

Ｒ２・３・４年度の特別な任務

■甲府の子どもの教育総合推進校
（確かな学力向上推進校）
・学力向上の取組　　・「思い遣る心」の育成
・拡大校内研の開催

児童の実態・課題から

① 学習への意欲・理解力に個人差がある。
② 学習面・生活面ともに，特別な支援を要する児童が各クラスに数名いる。
③ 自分の考えをまとめたり，表現したりすることに苦手意識が見られる。
④ 目的や意図に応じ，必要な内容を整理したり，理由や根拠を示して論理的に説明したりする力がやや弱い。
⑤ 家庭学習の取組について，内容や質・家庭の協力に差が見られる。
（全国学力・学習状況調査，学校評価等から）

研究主題　　「主体的・対話的で深い学び」を実現する授業づくり
～　動き出したくなる課題設定の工夫を通して　～

授業研究の推進

○課題設定の工夫　　○学習過程の工夫
○教材・教具の工夫　○学習形態の工夫
○評価方法の工夫
・教材研究，教材づくり
・学習指導案の検討・作成
・ブロックでの研究授業

学習会の開催

・「主体的・対話的で深い学び」の授業づくりについての学習会

家庭学習の充実

・「家庭学習のすすめ」の作成・配布
・家庭との連携
・計画的・効果的な家庭学習の推進

１０　研究経過（令和３年度）

月・日・曜日	研究会	研究内容等
４月１４日（水）	第1回校内研究会	**全体会**　甲府の子どもの教育総合推進校として２年次の研究の概要について
５月　７日（金）	第2回校内研究会	**全体会**　研究構想図・研究主題 研究組織・研究計画等の確認
５月２６日（水）	第3回校内研究会	**全体会**　教育課程，ノートと板書，評価について 指導案の形式について **ブロック研**　ブロック，機能部会の研究計画について
６月１６日（水）	第4回校内研究会	**ブロック研**　各ブロック指導案検討①
７月２０日（木）	第5回校内研究会	**学習会** 「Chromebook学習会」 講師：鷲山　凌　教諭
７月２１日（水）	第6回校内研究会	**学習会** 「『主体的・対話的で深い学び』の実現に向けて」 講師：甲府市教育委員会 指　導　主　事　輿石　智也　先生 学力向上専門員　加賀美　猛　先生 **全体会**　学力・学習状況調査学習会 **ブロック研**　各ブロック指導案検討②
７月２８日（水）	第7回校内研究会	**全体会**　一校一実践・一人一実践について **ブロック研**　各ブロック指導案検討③ 各学年指導案検討①
８月１８日（水）	第8回校内研究会	**ブロック研**　各ブロック指導案検討・準備④ 各学年指導案検討②
９月　８日（水）	第9回校内研究会	**全体会**　各ブロックの授業の概要を全体で確認・共有 **ブロック研**　各ブロック指導案検討・準備⑤
１０月　６日（水）	第10回校内研究会	ブロックごとの参観授業（5･6日） **ブロック研**　参観授業を踏まえての指導案検討⑥
１０月１８日（月）	第11回校内研究会	ブロックごとの参観授業（14･18日） **ブロック研**　参観授業を踏まえての指導案検討⑦
１０月３０日（土）	第12回校内研究会	**全体会**　拡大校内研について **ブロック研**　各ブロックの授業の確認
１１月１０日（水）	第13回校内研究会 （拡大校内研）	授業提案・研究会
１２月　６日（月）	第14回校内研究会	**全体会**　研究紀要の作成について 校内研究会の振り返りアンケートについて **ブロック研**　各ブロックでのまとめ（成果と課題）
１月２６日（水）	第15回校内研究会 （拡大校内研）	**講演会**（Zoomによるオンライン講演会） 「資質・能力を育成する授業づくりとカリキュラム・マネジメント」 講師：上智大学教授　奈須　正裕　先生
２月１６日（水）	第16回校内研究会	**全体会**　今年度の振り返りとまとめ 次年度に向けて

１１　研究計画（令和４年度）

月・日・曜日	研究会	研究内容等
４月１３日（水）	第1回校内研究会	**全体会**　甲府の子どもの教育総合推進校として３年次の研究の概要について
５月　９日（月）	第2回校内研究会	**全体会**　研究構想図・研究主題 研究組織・研究計画等の確認
５月１８日（水）	第3回校内研究会	**全体会**　教育課程，評価について 指導案の形式について **ブロック研**　ブロック，機能部会の研究計画について
５月２５日（水）	第4回校内研究会	**ブロック研**　各ブロック指導案検討①
６月１５日（水）	第5回校内研究会	**全体会**　教科等についての「主体的・対話的で深い学び」の授業づくり学習会（講師招聘） **ブロック研**　各ブロック指導案検討②
６月２２日（水）	第6回校内研究会	**ブロック研**　各ブロック指導案検討③
７月２０日（水）	第7回校内研究会	**全体会**　一校一実践・一人一実践について **ブロック研**　各ブロック指導案検討④ 各学年指導案検討②
７月２９日（金）	第8回校内研究会	**ブロック研**　各ブロック指導案検討・準備⑤ 各学年指導案検討③
８月１７日（水）	第9回校内研究会	**ブロック研**　各ブロック指導案検討・準備⑥ 各学年指導案検討④
９月１４日（水）	第10回校内研究会	**全体会**　各ブロックの授業の概要を全体で確認・共有 **ブロック研**　各ブロック指導案検討・準備⑦
１０月１２日（水）	第11回校内研究会	ブロックごとの参観授業（９月～１０月１２日） **ブロック研**　参観授業を踏まえての指導案検討⑧
１０月２６日（水）	第12回校内研究会	**全体会**　公開研究会について **ブロック研**　各ブロックの授業の確認 （11月初旬にプレ授業実施，授業の振り返り）
１１月１７日（木）	第13回校内研究会 （公開研究会）	授業提案・研究会
１２月　７日（水）	第14回校内研究会	**全体会**　研究紀要の作成について 校内研究会の振り返りアンケートについて **ブロック研**　各ブロックでのまとめ（成果と課題）
１月２５日（水）	第15回校内研究会	**全体会**　研究のまとめ（成果と課題）
２月　３日（金）	第16回校内研究会	**全体会**　次年度の方向性について
２月１５日（水）	第17回校内研究会	**全体会**　次年度に向けての準備 **（学習会）**

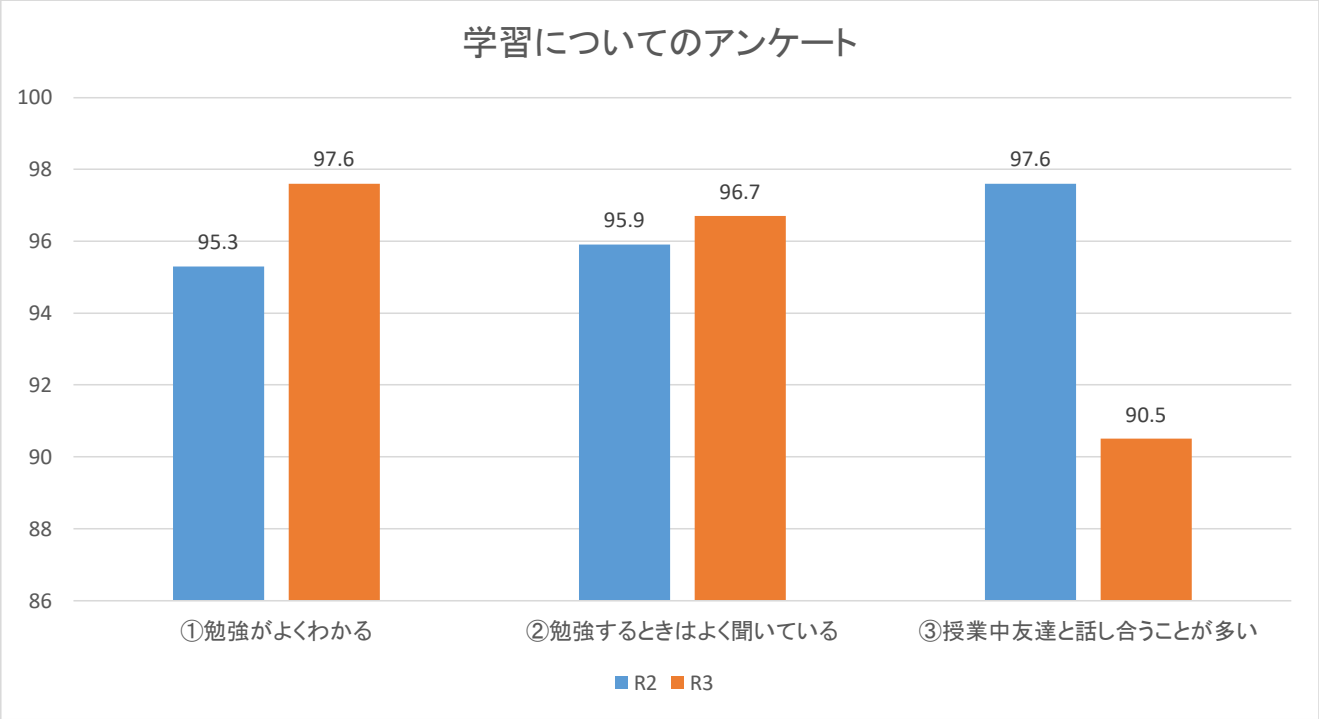
１２　学習に関する児童実態調査と意識調査

（１）調査の目的

学習に関する児童の実態と意識をある程度客観的に調査し，結果を分析する。研究終盤に同様な調査を再び実施し，その分析結果を比較検討し，研究評価の一資料とする。

（２）児童実態調査と意識調査の分析（結果）

本校における令和２・３年度の質問紙調査の結果は以下の通り。



・授業改善に取り組んでいった結果，学習意欲が高まったと思われる。
・「話し合い活動」については，コロナ禍で授業形態の制約があったため令和２年度に比べて令和３年度は減少したと考えられる。